

動労組合員は千葉地本の闘う路線のもとに総結集せよ



79.2.13
No. 32

国鉄動力車労働組合
千葉地方本部

千葉市要町二一九(動力車会館)
(鉄電)二五八〇九(公衆)三三二七二〇七

動労運動の現在と未来をかけた三二回臨時大会は、圧倒的に成功した。大会は、①「三里塚Ⅱ労農連帯」②「水本Ⅱデマ謀略運動」③「貨物安定宣言Ⅱ反合闘争の放棄」に代表される、動労運動の変質（動労の戦闘的伝統を汚し、労組の産業報国会化）の道をファッショ的暴力によって許すのかそれとも、「労農連帯強化」、「『水本』脱会」、「貨物安定宣言」廃棄の路線をうちたて、動労の戦闘的伝統と栄光を復権させ、労働者としての階級的利益を守る道をとるかを論議した。もちろん大会は後者の路線を満場一致で圧倒的に確認した。そして大会の成功をもって千葉地本一四〇〇はもとより動労四万七千の進むべき路線として、このもとに結集せよと「動労大改革運動」の大会令を発したのである。全組合員の皆さん、全国の心ある仲間と共に、この闘う路線のもとに総決起しよう。（以下三二回臨時大会で採択した闘争宣言を掲載します。）

闘争宣言

われわれは一九七九年二月一日、千葉市において第三二回臨時地本大会を開催し、千葉地本排除Ⅰ組織破壊攻撃を断固粉碎し、労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹し、自らの職場と労働条件を守る闘いに一四〇〇名組合員・家族が一丸となって決起してゆく決意をこめた方針を確立した。

動労千葉地本のこの間の三里塚・ジェット闘争をはじめとする闘いは、労働組合の階級的責務を全うし、階級闘争の正義を守る闘いとして、とめどない日本労働運動の右傾化の中でしん吟する多くの労働者・人民に、八〇年代労働運動の戦闘的再生への限らない希望を与えるものとして、圧倒的支援・連帯の旗を振りかちとりつつ闘い抜かれた。同時にこの闘いは労働運動の原則を貫き、侵略と戦争への道を突き進む日本帝国主義から労働運動総体への産業報国会化攻撃、戦時体制のための徹底した合理化攻撃に、職場・生産点から反撃する闘いとして、労働者が自らの質的向上をかちとりつつ勝利的に貫徹されてきたのである。

この闘いの高揚に対する権力・当局の弾圧の強まりの中で、この労農連帯の闘いによって自らの反動性が暴露されることに恐怖した革マルとそれに追従する一部反動分子の権力と一体となった露骨な敵対が開始された。

しかし、第三三回水上全国大会方針を明確に裏切る「ろ・一終止符論」と三里塚に対置する「水本謀略運動」をもってする醜悪な敵対は、「四つの視点」と「二つの戦略」によって武装され、支配の中枢を震撼させた「一〇〇日間闘争」の爆発的高揚によって一しゅうされた。

このことに焦った革マルおよびそれに追従する一部反動分子は第三四回全国大会で「三里塚闘争Ⅱ権力の謀略劇」「反対同盟Ⅱ権力のスパイ」なる天人ともに許し難い敵対をもって「一線を画する」方針を、ファッショ的議事運営と集団テロ・リンチによって押し通し、さらに第一〇一回定中委での千葉地本・地青三役に対する査問・統制処分に至らず、全国の戦闘的労働者に対し「千葉地本を擁護する者はたたき出す」なる脅迫をもって、暴力と排除の論理による支配を強化せんとするに至った。

いまや、この規約・規則無視、組織運営ルール無視の暴力支配に対する怨嗟と怒りの声は動労四万七千組合員の共通の叫びとなっている。

いまや革マルおよびそれに追従する一部反動分子の動労私物化と動労の労働組合としての機能喪失は覆い難いものと言わなければならぬ。

「水本謀略」「三里塚敵対」「貨物安定宣言」に端的に示される路線上の右翼化Ⅰ産報化と排除の論理に基づく暴力支配は表裏一体のものとして、四万七千組合員が幾多の苦闘の中から血と汗をもって築いてきた動労の戦闘性・階級性を内部から強引に破壊するものとなっている。

われわれがこの間、あらゆる誹謗・中傷、どう喝、テロ・リンチ、統制処分攻撃にも屈せず、節を曲げずに声を大に主張してきた動労の階級的組合民主主義の確立と戦闘的統一と団結の呼びかけは、われわれが闘い抜いてきた反合・運転保安闘争、労農連帯Ⅰ三里塚・ジェット闘争の勝利的展開とあわせて、われわれの正義性を満天下に指し示すものとなっている。

動労の戦闘的伝統を正しく継承しているのはわれわれと、われわれの闘いである。

われわれは、激動の八〇年代を、労働者の階級的・本質的利益を守り抜くために闘う。

われわれは三里塚・芝山連合空港反対同盟との労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争貫徹に向けて決起する。

われわれは、「水本謀略運動」を糾弾し、動労の私物化とセクト的引きまわしに断を下す。

われわれは「貨物安定宣言」を廃棄し、迫りくる国鉄大合理化攻撃に対決する闘いに決起する。

全国の闘う仲間たち！ 闘いるときはきた！ いまこそ総決起しよう！ 右、宣言する。

一九七九年二月一日

国鉄動力車労働組合千葉地方本部第三二回臨時大会